第１０回ＥＳＤ連続セミナー概要報告

奈良教育大学　大西　浩明

◇実施日時　　2023 年 1 月 19 日（木）19 時～21 時
◇方法　　ZOOM によるオンライン開催
◇参加者数　　36 名
◇内容　　学習指導案の相互検討③

【ルーム１】担当：大西浩明

（１）木下結等さん：教育学専修３回生

小学校５年　社会科『海なし県の海善プロジェクト！～海なし県でも海を救える?!～』

現在の寿司の写真を見せて 100 年後の寿司を予想　　ほとんどない！

「なぜ、100 年後の寿司ネタがほとんどないのだろう？」

海洋ごみやプラスチックなど、海には様々な問題がある

→　海を守るためにできること？　　「本当にそれでいいのか？」

和歌山への校外学習「海と日本 project」の方々のお話を聞いたり、一緒に活動したりする

→　本当にできることは、近くの川でできる

〈意見交流〉

・「本当にそれでいいのか？」という問いがいい。よりクリティカルな思考が生まれる。
・佐保川清掃などのイベントに参加したり、そこで発信したりすると効果的。
・海と川のつながりだけでなく、そこに山も入ればよりつながりがはっきりとする。
　５年生のこの単元で「森林のはたらき」があるので、十分可能。

（２）福西隆生さん：英語教育専修３回生

高校２年　総合的な探究の時間（英語）「物語を世界と未来につなぐ」

昔話や童話など、だれもが知っているような物語の１シーンを翻訳させる

翻訳アプリでは出せない、自分らしい言い回しがそれぞれできたらおもしろい。

この授業のテーマは文化の継承なので、最後にアイヌの継承活動について学習したい。

〈意見交流〉

・どのように翻訳するか、一文でいいので例を出してみてはどうか。
・翻訳と聞くと難しい印象だが、自分なりの表現を考えるのは楽しいと思う。
・取り上げるお話を絞った方がいい。コンテンツの中身によって、すごく簡単だったりしてしまうこともあるのでは。
・映画の字幕の日本語訳と吹き替えの日本語とでは、同じセリフなのに日本語になると違ったりする。
・アイヌの事例が唐突なので、あいだにもう１時間、「文化の継承」について一つのテーマで話し合う必要があると思う。

（３）加藤尋和先生：奈良市立興東小学校

小学校６年　総合的な学習の時間「柳生の文化財の魅力を発信しよう！」

円成寺は素晴らしい寺なのに、子どもにとっては当たり前すぎてその価値に気づいていない。

円成寺の建物の修復費用のうち、800 万円をクラウドファンディングで集めた。
見学や住職さんからの聞き取りから、円成寺の魅力をたくさん見つける。
→　リーフレット作成　　円成寺や観光案内書などに置いてもらう。

〈意見交流〉

・導入で子どものモチベーションになるような驚きのあるものが必要ではないか。
大日如来は、金剛力士像をつくった運慶の作品。
円成寺には、戦争中東大寺三月堂の仏像が疎開していた（世界のたからものを守った）　など。
・リーフレットがどんどん広がっていくのは子どものやる気につながる
外国語バージョンもつくれるといい。
・なぜ守られてきたのか、人の営みや思いに気づかせたい。
クラウドファンディングした人は、なぜ柳生の人でもないのに協力するのか。
外から円成寺を見た人の気持ちに触れさせたい。

（４）後川りのさん：音楽教育専修３回生
小学校４年　社会科・総合「文化財や年中行事を自分たちで残していこう」
奈良市の子どもなので、やはり「おん祭」を取り上げたい。
自分もそうだったが、行列を少し見てあとはで出店しか行っていない。
→　おん祭の内容を調べる　→　長く続いてきているわけを考える
もっと広めたいという思い　　ポスター作成

〈意見交流〉

・ポスターにこだわらなくてもいいのでは。ロイロでまとめて配信するという方法も今ならある。
・おん祭について「調べたい」「伝えたい」という動機づけになるような導入にしたい
おん祭には毎年行くのに、何も知らないということを実感させる
・音楽専修の強みを生かして、雅楽や舞楽にスポットを当ててみてはどうか。
おん祭は伝統芸能の宝庫でもある。　　笙(しょう)や篳篥(ひちりき)など実際に体験する活動
南都楽所の方に来てもらったことがある（大安寺西小学校)。

【ルーム２】担当：中澤静男

（１）森恵里奈さん：音楽教育専修３回生
小学校６年　音楽科「地車（だんじり）囃子」

３００年間にわたって受け継がれている岸和田の地車祭りに地車で演奏される「地車囃子」を。主にリズムに着目させながら鑑賞する。囃子には現在主流となっている「均等打ち」の他に「並あし打ち」もあることに気づくことから学習が始まる。地車会館を訪問し、インタビュー調査などを行うことで、３００年間受け継がれてきた「並あし打ち」ができる人が少なくなっている事実から、受け継ぐことについて考えさせる。

（意見交流）

・かねの音が聞こえだすと、わくわくする。原風景を形作っている。
・地域アイデンティティを形成する要素となっている。
・並あし打ちから均等打ちにかわっているということは、並あし打ちの前にも他の打ち方があったかもしれない。変化しないのがよいのか、変化を受け入れるのがよいのか。

・打ち方ひとつにも多様性があることに気づかせることができる。
・地車囃子自体がいろいろな楽器によって形作られていることから、①以前は、並あし打ち同様、他の演奏のし方もあったのでは、②他の楽器も使われていたのではなど、学びを広げることができる。
・他の地域の祭り囃子への関心を高めることができる。

（2）宇和谷紗恵さん：家庭科教育専修３回生

中学２年　総合的な学習の時間「大和野菜をみんなで美味しく食べよう！」

・生徒の実態

食に関する興味関心が薄れている。

「こ食(孤食・固食・個食・子食・小食・戸食・粉食・濃食・虚食)」が増加している

・方策

地産地消や大和野菜について学ぶことを通して、食への関心を高め、素材本来のおいしさに気づくことができるようにしたい。

（意見交流）

・給食の「大和郡山市の日」という共通体験を取り上げ、地産地消に関する意識化ができている。
・大和丸ナス、筒井レンコンの生産者にインタビューすることで、生産者にとっての豊かさにふれることができている。
・レシピを考える、調理するという体験的な学びを通して、教材と生徒の距離を近くしている。
・給食センターの方からの講評。
・食料について考える際の視点には３つある。生産者としての豊かさ、消費者としての豊かさ、地球にとっての豊かさである。今回の場合、調理者にとっての豊かさにもせまることができている。

（3）長浜佐知子先生：奈良市立都跡小学校

小学３年　総合的な学習の時間「みあとの祭りカレンダーをつくろう」

・総合的な学習の時間の学習であることから、児童が自ら探究的な見方・考え方を働かせ、課題を解決し、自己の生き方を考えて行くための資質・能力を育成することを第一義として単元を計画する。
・カリキュラムマネジメントについて

学校の教育目標

「自らの学びを深め、他者と協働して未来を切り拓き、たくましく生き抜く子どもの育成」

３年生の総合的な学習の時間「都跡のたからを伝えよう」（40 時間）

１学期：「町のやさしさを見つけよう」・SDG s３番と 11 番に関連して

２学期・３学期：「都跡のたからをみつけよう」「未来に残そう。都跡の宝物」・12 番と 11 番

・児童の現状

コロナ禍の影響を受け地域行事が減り、祭りやイベントなどの経験を持てず、地域のつながりを感じられない児童が多くなってきている。

平城宮跡のお祭りには行ったことがあるが、地元のお祭りに参加したことがある児童が少なく、うっすらとコロナ前の記憶が残っている程度で、児童と地域のかかわりが減っている。

・総合的な学習の時間に係るカリキュラムマネジメント

・6年間のESDの学びを通して、学校教育目標に示された子どもの育成を目指している。
・第3学年では「自分の生活と文化の継承がつながっていることを考えられる子ども」の育成を目指す。

・都跡小校区にある祭りの分析

1) 神社・寺の祭り 氏子、檀家のための祭り：
閉鎖的な祭り。伝統を守り、地域の文化・誇りを守る。

2) 神社・寺の祭り 観光客や小学生にも開かれた祭り：
文化や独自性を感じ、つながりを感じる。

3) 地域の祭り 地域の住民のための祭り：
自治連合会を中心に。地域振興。住民のつながり・地域文化の継承

4) 学校と地域の祭り 子供たちのための祭り：
学校は場を提供する。子どもたちが楽しむ。各種団体は活動資金を得る。様々な成人モデルや身近なあこがれを感じることができる。

・学習の展開

事前に行ったアンケートから担当を決め、各自がグーグルマップに調べたことを記入する。
ふれあい会館で高齢者にインタビューして教わったことをグーグルマップ上に追記する。
各自がグーグルマップ上に作成したレイヤーを重ねて完成させる。

・評価について

1. 子どもたちに学ぶ必然性が生まれる。
2. 生活から学習を始めて、生活に戻ってさらに発展できる。
3. 教科固有性や系統性も担保できる。
4. ごっこ遊びのパフォーマンス課題にならない。
5. 地域教材なので、地域の方を巻き込んで、自動的に社会に開かれた教育課程になっていく。

【ルーム３】担当：中澤哲也

（１）松岡花さん：音楽教育専修３回生

小学校３年　音楽科「茶つみのリズムを味わおう」

手摘みと機械摘みのおいしさのちがい
総合と絡んでくると幅が広がりすぎる
歌詞から、言葉を深めていく→文化、情景、風景を感じながら歌う
お茶嫌いな子が増えている子への配慮はいる　　実際にお茶を飲むのはおもしろい

音楽→活動→音楽のサンドイッチがいい
まずは自分で調べることで出てきた疑問→お茶農家さんに聞くことでより主体的になる
ゲストに会ってからお茶を飲むとおいしく感じる

（2）北野結衣さん：社会科教育専修３回生
小学校４年　社会科「高知の水害から身を守るために」
大雨で外に出られない場合にどうするか
警報の発令前と発令時に分ける　　高知の降水量は多い
自分以外の人になんと声掛けをするかを考えるではちょっと弱い
危機感の薄さは感じにくいのでは？　　何か危機感を感じる資料は？
これまで危機感を感じてなかったものが危機感を感じられる実践にしたい
もっと地元だからできるひろげ方をすればいいのでは？　　地元に合った教材がいい！
どんな行動ができる児童になってほしい？
正直なんとかなると考えている児童が多いのをなんとかしたい。
実際に声をかけて助かった経験があるかどうか
公助はだめと考えないようにしたい
高知豪雨の反省を生かした公助がたくさん→単元の入り口に使える

（3）川口綾菜さん：英語教育専修３回生
中学校２年　総合的な学習の時間「外国人に優しいまちづくり」
木津川市を舞台に
外国人へのフォーカスの当て方
川口さんがスーパーのレジのアルバイトから見えてきた外国人への課題
→レジ袋がいるかどうか
→どこに何があるかわからない
『木津川やさ C プロジェクト』→優しく・住みやすい・コミュニティ
ネーミングがいいね！　学校内でも利用できる！
外国語に翻訳でなく、やさしい日本語に直す
ALT の先生に伝えることを目標に→生徒が目的意識をもてる
もっと自分ごとにして考えられるのでは？
外国人側だけでなく、日本人も困ることもあるのでは？
お互いが WINWIN な関係→してあげることで、こちらも助かるような取り組み
国際理解をもっと掘り下げて、外国人の文化をもっと理解できる時間を入れてみては
ALT のもつ困難は人との関りと社会との関りによってひろげ方は違ってくるのでは

【ルーム４】担当：中村友弥
（1）前田桃花さん：英語教育専修３回生
高校１年　英語「Short trip to Nara」
実際に高校で授業を行った内容を ESD で見つめ直した指導案。ご自身のガイドの経験を活かし、英語でガイドすることを想定し、東大寺や興福寺を説明する活動。

→奈良の文化財を大切にしてほしいと願う先生の想いがすばらしい。
→ローマは１日してならず　ぜひこのような授業の積み重ねを。
→ESD だから世界遺産を題材にしたではなく、英語だからこの題材が良いのではという視点で授業を組み立てられるようになるとよい。

（２）藤本尋巳さん：音楽教育専修３回生
小学校６年　総合的な学習の時間　「われは海の子　～海からのＳＯＳ～」
海の環境問題について、奈良県の私たちは海がないから関係ないではなく、水は循環していることやつながっていることを実感し、環境問題を真剣に考えてほしいという思いで考えた指導案。
→われは海の子の歌詞がすばらしい。すばらしいので、より歌詞に注目し、他の海を題材とした曲を取り上げて、現在の海の環境問題へつなげていくのはどうだろうか。
→海の環境問題の発信や表現は、様々な方法にチャレンジするのもおもしろい。随筆や絵など

（３）梅原彩華さん：音楽教育専修３回生
小学校３年　総合的な学習の時間「茶つみ」
地元である宇治で授業することを想定して、宇治茶を題材にした指導案。宇治茶の伝統や歴史、茶に関する体験活動を通じて、文化を大切に想う心を育みたい。
→総合の授業の計画の仕方として、探究活動を意識して取り組む。課題　整理・分析　発信、まとめなど。
→「宇治茶は本当に受け継がなければならないのか。」と逆説的に考えてみるのもよい。
実際に児童に質問されたときにも必ず役に立つ。

【ルーム５】担当：加藤久雄
（１）木村直希さん：心理学専修３回生
小学校６年　総合的な学習の時間「佐保川について知ろう、考えよう、伝えよう」
概要：（出身小学校を想定した指導案）身近な川である佐保川を題材に、佐保川の歴史的背景や人々が守り続けてきた河の景観に注目し、これからも佐保川を守り続けていくための利用のマナー等について考える。
〇意見・感想等
・フィールドワークなどで児童から疑問を引き出すのは難しいので、ワークシートを活用してはどうか。
・指導案の中では教員が川路桜について解説するとあったが、フィールドワークの中でも目につく樹なのであれば、子供たちから出てくるのではないか。
・フィールドワークの際に地図を使うとあったが、児童はタブレットを持っているので、それを持って写真を撮るなどした方が、その視点が記録されるため、フィールドワーク後の振り返りにも活用しやすいのではないか。
・内容的に歴史から利用のマナーまで幅広だが、テーマを絞らずにやるのであれば、その軸をしっかり持って作った方が良い。
・佐保川は色々な実践があると思うが、歴史的な視点は少ない。川路聖謨の想いに絞っての展開も考えられるのではないか。
・どのような展開にするかについて、軸となる単元の目標を練り込んでおくとブレなく進められるので

はないか。

（2）西田有佳里さん：特別支援教育専修３回生

小学校５年　総合的な学習の時間

「心も体もユニバーサルデザイン ～みんなにとって過ごしやすい空間づくり」

概要：障害のある・なしに関わらず暮らしやすいインクルーシブな社会を作るためにどんなことができるかを、体験やゲストティーチャーの話から、気づいたことを踏まえてイベントの実践などに取り組むことを通じて学ぶ。

〇意見・感想等

・インクルーシブな社会を作るための考え方

（指導教諭より）インクルーシブな社会を作る際に最初はハードなものから考えると思うが、本当は人と人の心の距離なのではないかと思っている。そういったことから、冒頭に「障害」を全面に出さずに遊びのような体験から、バリアについて気づいたり、障害を持った方との交流を通じて相手のことを考えたりするといった相互性などを学べるようになればと思っている。

・冒頭で色々な障害を体験したり、調べ学習から、障害を持っている方が困っていることを予想したりする流れがあるが、いろいろな障害を対象とすると児童が調べることが幅広くなりすぎて混乱するのではないか。

・障がい者も含めた「みんなが過ごしやすい空間」だと、なかなか難しいので、クラスなど身近な範囲で「みんなが過ごしやすい空間」から考えていくと広げて行きやすいのではないか。

・学校で行うイベントではハードの対策が中心となってしまう可能性があると感じたが、「心の距離」についてはどのように気づきを与えるのか。

・障害当事者からの話を聞く中で、バリアフリーを作れれば良いかと思った。

・ゲストティーチャーに来てもらった際に心のバリアに気づかせるのがポイントかと思うので、指導案の「指導上の留意点」の部分にゲストティーチャーとの交流を通じて「心のバリアに気づかせる」という点を記載することで、「過ごしやすい空間ってなんだろう」という問いへ持っていくと、児童の思考が見えてくる。「過ごしやすい空間」についても物理的な空間と心理的な空間の２つの視点で考えてもらってから、イベントに取り組むことで整理しやすくなるのでは。

→正解が一つしかないのではなく、いくつもある答えの一つとなれば良いと思っている。それが今後色々なことに繋がれば良いと考えている。

（3）中家麻弥さん：教育学専修３回生

小学校５年　総合的な学習の時間「災害から自分たちの命を守るためにできること」

概要：出身校（三重県津市立栗葉小学校）での実践を想定。自分たちの地域での過去の災害について調べたり、防災の取り組みを行っている他地域の学校との交流を通じて、自らの地域の防災意識を高め、防災への取り組みを自分ごと化する。

〇意見・感想等

・（指導教諭より）自分の出身校ということで具体性があって良い。子どもの考えを具体的に予想することが必要であるといった話をしている。

・奈良県に住んでいると海とのつながりがないため、あまり気づかない視点。他地域との交流では、海なし県とやるのも良いのではと思った。災害にいつ会うかわからないため、色々な想定ができると良

い。
・授業の中でハザードマップを使うなら、ハザードマップだけではわからない危険な場所などを児童の目線で作っていくのも良いのではないか。
・もっと調べても良い（例：伊勢湾台風）想定以上の広域な被害がある場合もあるため、一つの災害が及ぼしたさまざまな影響を知ることで交流も考えられる。
・交流する場合、相手の学校にどんなメリットがあるかをしっかりと相談する必要があるため、その視点も入れ込んだ方が良い。また、ゲストティーチャーに依頼する場合は、どんな話をどこまでしてもらいたいかを明確にしておく必要がある。